

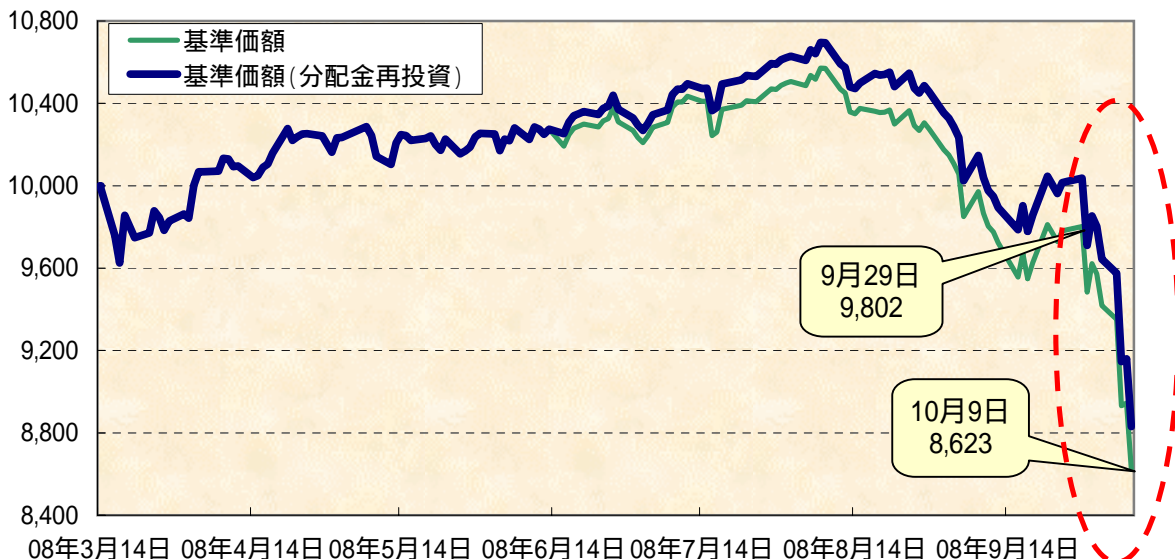
グローバル・ボンド・ベーシック(毎月決算型)の最近の状況について



ファンド・オブ・ファンズ

9月末以降、当ファンドの基準価額は大幅な円高の進行により、大きく下落しました。欧米およびオセアニアにおける為替相場は、米国発の金融危機が欧州にも飛び火したこと、世界的な景気後退観測が強まったこと、株式市況の大幅下落を受けて投資家のリスク許容度が大きく低下したことなどから、主要国通貨に対して円が急騰しました。足元で欧州の金融機関に関する経営不安が高まったこと、豪州の大幅利下げや国際商品価格の下落などを受けて、これまでドルに対して買われてきたユーロや豪ドルが、ドルに対して大幅に売られる展開となりました。また、投資家は低金利の円を借りて株式や商品市況などに投資していた資金が逆流の動きを強め、為替市場での円高の動きを後押ししたと考えています。また、株式市況の大幅な下落や連日のように報道されるニュースを受けて、投資家のリスク回避姿勢が一段と強まったことを受け、長期金利は低下(債券価格上昇)したものの、協調利下げ後は、長期金利は上昇(債券価格下落)に転じています。新興国では、上記の資金逆流の動きが、ブラジル、トルコといった高金利通貨を中心に特に強まり、円に対して大きく下落しました。当ファンドの基準価額は2008年10月9日現在、8,623円(1万口当たり)となり、2008年9月29日現在の9,802円(1万口当たり)と比較して、1,179円の下落となっています。

基準価額、基準価額(分配金再投資)の推移(2008年3月14日～2008年10月9日)



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日前営業日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.26%(税抜1.2%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

最近の世界経済の主な出来事と金融市場の動き

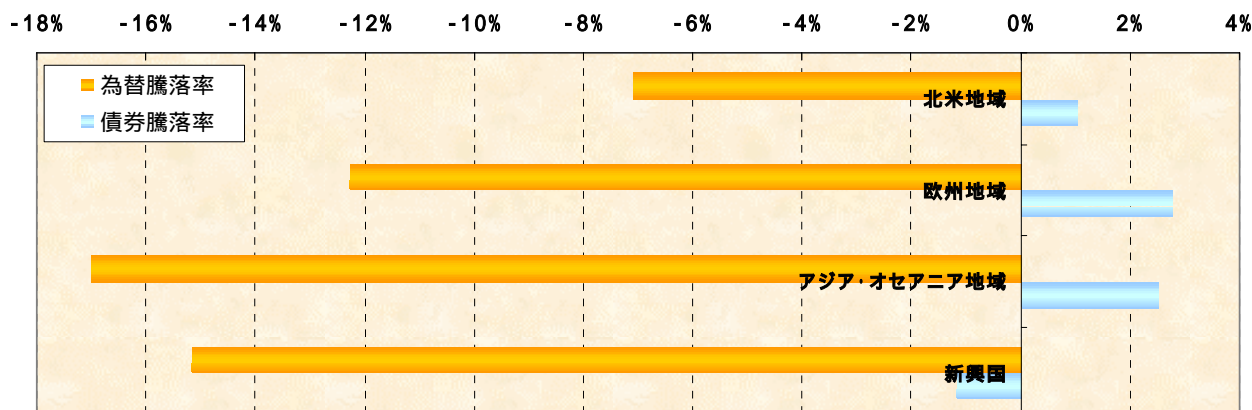
日付	主な出来事と金融市場の動き
9/25(木)	ワシントンミューチュアル経営破綻、JPモルガンが買収
9/29(月)	米下院が金融安定化法案を否決 米ダウ平均大幅下落
	ベルギー・オランダ系銀行フォルティスが実質国有化
10/3(金)	米下院が金融安定化法案の修正案を可決
10/6(月)	アイスランド政府が非常事態宣言、大手銀行を政府管理下に
10/8(水)	日経平均急落、歴代3番目の下落率 主要通貨に対し、円高進行
	米欧6中銀およびアジア4中銀が協調利下げを発表
	英政府が大手英銀8行への資本注入を柱とする包括的な銀行救済案を発表

・上記グラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

## グローバル・ボンド・ベーシック(毎月決算型)の最近の状況について

### 地域、投資先別の債券価格・為替の動き(2008年9月30日～2008年10月9日)



北米地域:シティグループ世界国債インデックス(アメリカ・カナダ) 欧州地域:シティグループ世界国債インデックス(ユーロ圏・イギリス・スイス・デンマーク・ノルウェー・スウェーデン) アジア・オセアニア地域:シティグループ世界国債インデックス(オーストラリア・シンガポール・ニュージーランド) 新興国:JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドの各国インデックスを使用

シティグループ世界国債インデックスとは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した、世界主要国の国債の総合投資利回りを各市場の時価総額で加重平均し指数化した債券インデックスです。

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.Morgan Securities Inc.が算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。

### <参考>先進国債券・新興国債券の変動内訳(概算値)(2008年9月30日～2008年10月9日)

(単位:円)

	合計	先進国債券	新興国債券
価格変動	1,176	780	396
その他(信託報酬等)	3	-	-
分配金	0	-	-
基準価額変動額	1,179	-	-

・「<参考>先進国債券・新興国債券の変動内訳(概算値)」は、各要因が基準価額に与えた影響をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性等を保証するものではありません。

・価格変動につきましては、当ファンドが組み入れている「先進国債券」(先進国3地域債券マザーファンド)および「新興国債券」(ビムコケイマン エマージング ローカル ボンド ファンド)(JPY)に分けて表示しています。

・四捨五入のため全体計と内訳の合計が相違することがあります。

・上記グラフ・数値は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

### 今後の見通し

8日、米欧6中央銀行とともに中国などアジア4中央銀行が協調利下げを断行しましたが、日本銀行は流動性供給を通じて協力をするものの、政策金利の引き下げは見送りました。また、金融不安解消に向けた各種対策が実効性を持つまでの間をサポートするための手段としては、金融当局による流動性供給と低金利政策は不可欠とみられ、今後とも米欧アジア主要国の利下げが継続する可能性が高く、日本と海外の金利差の縮小が見込まれます。このような日本と海外諸国との金利差縮小に加え、投資家のリスク回避姿勢が強まっており、資金の逃避先として円が消去法的ながら選択される可能性が強いことなどから 当面は円高圧力を受けやすい展開が続くものとみています。

ただし、エマージング諸国は外貨準備高や経常収支といったファンダメンタルズ面で依然として良好な国が多く、利回りの面でも魅力的である点は通貨にとって将来的にプラス材料になるものと考えられます。

ファンドの基本的な運用方針に変更はありません。市況動向等に十分注意を払い、引き続き、ファンドのコンセプトに沿った運用を継続していく方針です。

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。





## グローバル・ボンド・ベーシック(毎月決算型)の最近の状況について

### ファンドの特色

- ・日本を除く世界の国債等を実質的な主要投資対象とし、幅広く分散投資を行います(ファンド・オブ・ファンズ形式)。
- ・日本を除く先進国3地域(北米地域、欧州地域、アジア・オセアニア地域)(75%)は、「先進国3地域債券マザーファンド」を通じて、新興国(25%)はピムコ社が運用する「ピムコ ケイマン エマージング ローカル ボンド ファンド」(JPY)を通じて投資を行います。
- ・日本を除く先進国3地域(75%)部分では、地域/通貨分散を目的として、投資通貨をベースに各地域への均等投資を基本投資割合とします。政治・経済環境に応じ、委託会社の判断で地域別の配分を±10%の範囲内で変動させることがあります。
- ・「ピムコ ケイマン エマージング ローカル ボンド ファンド」(JPY)の投資信託証券への運用指図に関する権限は、ピムコジャパンリミテッドに委託します。
- ・実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ・毎月の分配をめざします。

### 商品概要

信託期間	: 2008年3月14日から無期限
決算日	: 原則として、毎月16日(休業日の場合は翌営業日)
ベンチマーク	: 規定しておりません
お買付け申込み・中途換金	: 原則として、いつでもお買付申込み、換金のお申込みができます。ただし、ニューヨーク、ロンドン証券取引所の休業日、ニューヨーク、ロンドンの銀行の休業日、その他ニューヨーク、ロンドンにおける債券市場の取引停止日に該当する日については、お買付・中途換金のお申込みができません。
申込価額	: 申込受付日の翌営業日の基準価額

#### 【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

申込時に直接ご負担いただく費用	
申込手数料	: 申込価額 × 2.1% (税抜2%) を上限として販売会社が定める手数料率
換金時に直接ご負担いただく費用	
信託財産留保額	: なし
保有期間中に間接的にご負担いただく費用	
信託報酬	: 純資産総額に対して、年率 1.26% (税抜1.2%)
その他費用(*)	: 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等

(\*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。(課税関係)原則として、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の個別元本超過額に対して課税されます。なお、個人受益者については、2009年1月1日以降は、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。

【お申込不可日について】2008年の該当日は、3月21日、3月24日、5月26日、7月4日、8月25日、9月1日、11月11日、11月27日、12月25日、12月26日です。なお、休業日もしくは取引停止日は変更される場合があります。

### 当資料のご利用にあたっての注意事項等

当ファンドは、主に公社債を実質的な投資対象としますので、金利変動により組入公社債の価格が下落すること、組入公社債の発行者の倒産や財務状況の悪化等の影響により、組入公社債の価格が下落すること等で当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、実質的に外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。当ファンドの主な投資リスクとして、組入公社債の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク等があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入しておりません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

### (お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ... 三菱UFJ投信株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
 加入協会 (社)投資信託協会 / (社)日本証券投資顧問業協会  
 <お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034(毎営業日の9:00~17:00)  
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufig.jp/>  
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>  
 (\*メール配信対象外ファンドもあります。)

**グローバル・ボンド・ベーシック(毎月決算型)の最近の状況について**
**当ファンドにかかるリスクについて**

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

<b>市場リスク</b>	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、公社債を実質的な主要投資対象としており、公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>(為替変動リスク) 実質的な主要投資対象である海外の公社債は外貨建資産ですので、為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<b>信用リスク</b>	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<b>流動性リスク</b>	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
<b>カントリーリスク</b>	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、市場・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込む可能性が高まる可能性があります。</p>
<b>留意事項</b>	<p>・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。 ・当ファンドは、原則として毎期収益分配を行う方針ですが、毎期一定水準の収益分配金の支払いを保証するものではなく、収益分配金額は運用実績に応じて変動します。 なお、分配対象収益が少額の場合には、収益分配を行わないことがあります。</p>

「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

